



URBAN LiKE

2025年10月期 中間決算説明資料
(2024年11月1日～2025年4月30日)

会社概要

株式会社アーバンライク

基本情報

 会社名 株式会社アーバンライク	 証券コード 2992(東証)
 設立 2008年2月13日	 従業員数 69名 (2025年4月末日現在)
 本社所在地 熊本県荒尾市	 代表者 吉野 悟

企業理念

"理想以上の暮らしを舞台に、
人々の素敵な「ドラマ」を作る。"

お客様一人ひとりの暮らしに寄り添い、最適な住環境と感動体験を提供します。

革新的なアイデアと確かな技術で、持続可能な社会の実現に貢献します。

事業セグメント

-  **住宅事業**
セミオーダー住宅や規格住宅の企画、設計・施工、請負事業
-  **不動産事業**
不動産の分譲、開発、販売、仲介事業、賃貸管理業
-  **福祉関連施設事業**
障がい者グループホーム等の福祉関連施設の建築および販売

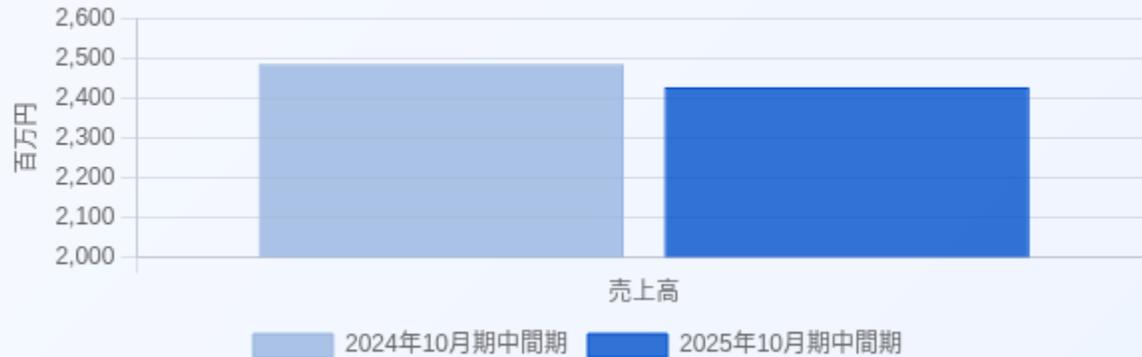
沿革

- 08年**
株式会社アーバンライク設立
- 12年**
不動産事業開始
- 16年**
福祉関連施設事業開始
- 2021年7月28日**
東京証券取引所（TOKYO PRO Market）へ上場

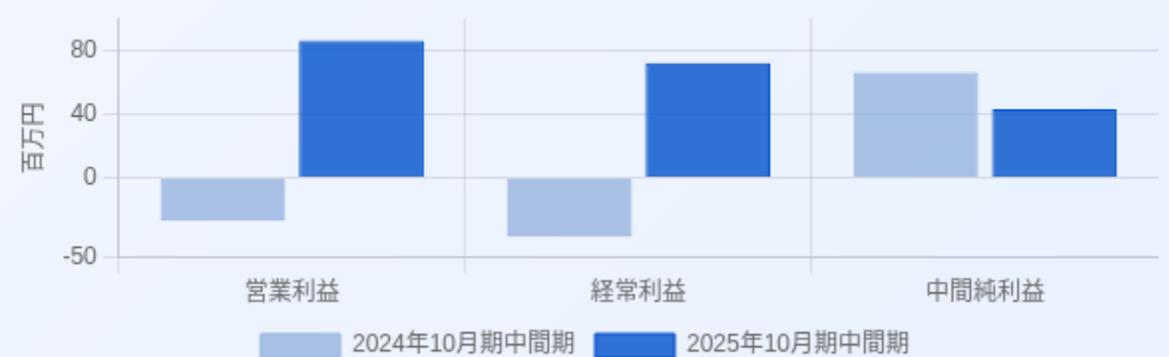
業績ハイライト

2025年10月期中間期（2024年11月1日～2025年4月30日）

売上高推移 (単位: 百万円)



利益推移 (単位: 百万円)



売上高

2,426百万円

前年同期比 **2.4%減**

前年同期: 2,485百万円

営業利益

86百万円

黒字転換

前年同期: $\Delta 27$ 百万円

経常利益

72百万円

黒字転換

前年同期: $\Delta 37$ 百万円

中間純利益

43百万円

前年同期比 **34.7%減**

前年同期: 66百万円

2025年10月期中間期のポイント

- 売上高は微減となったものの、**営業利益** **経常利益**は**黒字転換**を達成
- 住宅事業が前年同期比10.9%増と大幅に伸長し、収益改善に貢献
- 福祉関連施設事業も収益性が向上し、セグメント利益が前年同期比25.0%増
- 自己資本比率は23.0%と前年同期の20.5%から 改善

業績推移

2020年10月期～2025年10月期通期予想

売上高の推移 (2020年～2025年予想)



売上高推移

2020年10月期	2,541百万円	2021年10月期	3,723百万円
			↑
2022年10月期	3,228百万円	2023年10月期	4,652百万円
			↑
2024年10月期	6,141百万円	2025年予想	6,188百万円
	↑		↑

- 5年間で2.4倍の力強い成長

業績トレンド分析

- 📍 **力強い成長曲線:** 2020年から5年間で**年平均19.5%成長**
- 📈 **加速する成長:** 2023年(**44.1%増**)、2024年(**32.0%増**)
- 🏗️ **強固な事業基盤:** 一時調整後も**持続的な成長軌道**を確立
- 🎯 **堅調な2025年:** 中間期で通期予想の**39.2%**を達成

2025年通期見通し

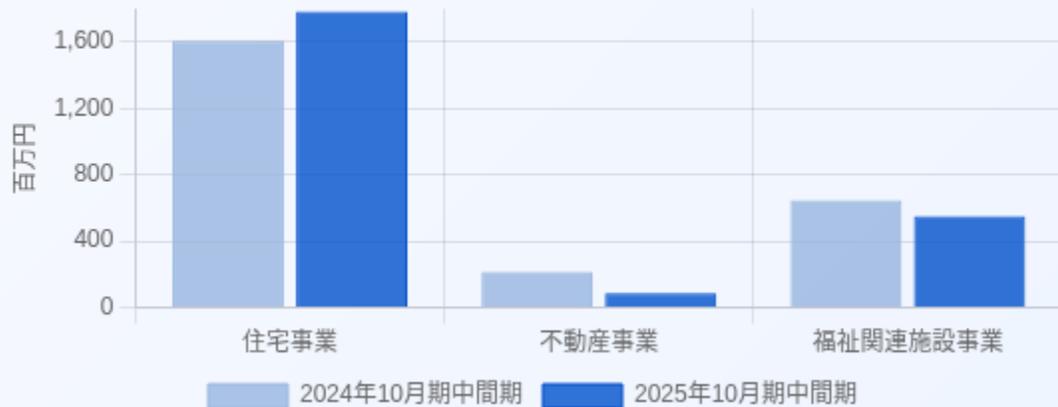
売上高	6,188百万円 (0.8%増)
営業利益	174百万円 (11.5%減)
経常利益	125百万円 (24.6%減)
当期純利益	81百万円 (38.3%減)

- 📌 中間期の営業利益、経常利益は**黒字転換を達成**
今後も安定成長を継続

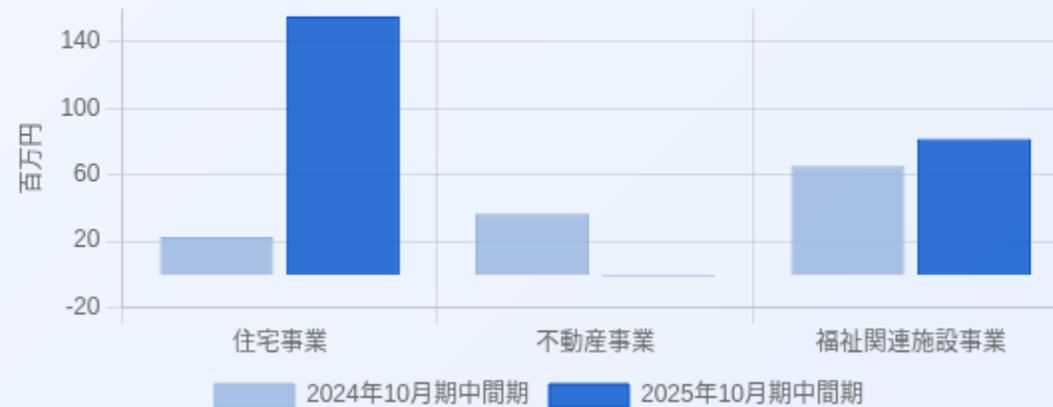
セグメント別業績

2025年10月期中間期（2024年11月1日～2025年4月30日）

セグメント別売上高



セグメント別利益



住宅事業

売上高
1,785百万円
前年同期比 **10.9%増**

セグメント利益
155百万円
前年同期比 **590.9%増**

- ✓ セミオーダー住宅や規格住宅の販売が好調
- ✓ 利益率の改善により大幅増益を達成

不動産事業

売上高
89百万円
前年同期比 **59.0%減**

セグメント利益
△0.6百万円
前年同期 **36百万円**

- ⓘ 不動産市場の調整局面の影響を受ける
- ⓘ 今後は賃貸管理業の強化にも注力

福祉関連施設事業

売上高
551百万円
前年同期比 **14.7%減**

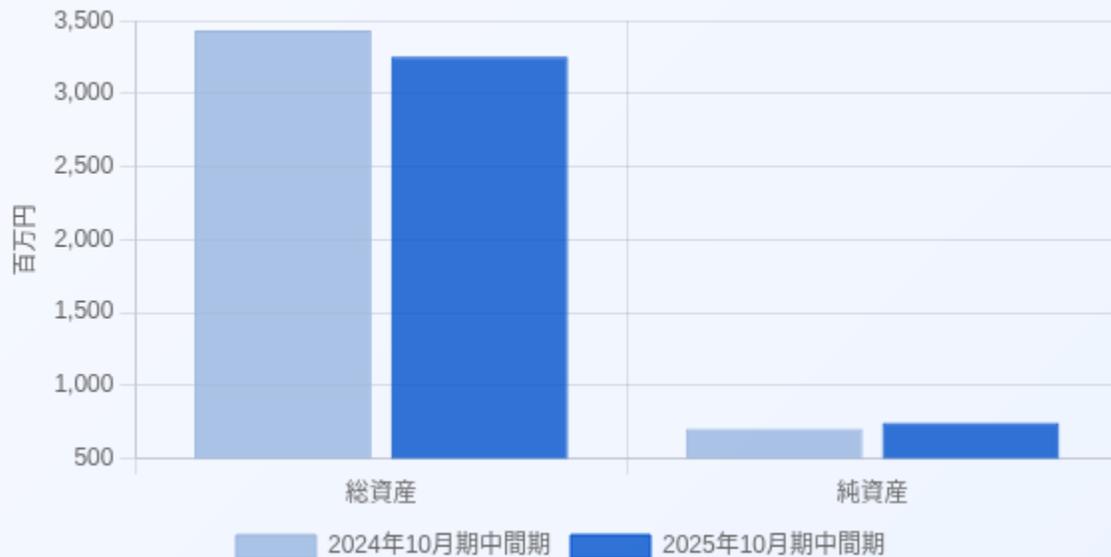
セグメント利益
81百万円
前年同期比 **25.0%増**

- ✓ 障がい者グループホーム施設の収益性向上
- ✓ 売上減少も利益率改善により増益

財政状態

2025年10月期中間期（2025年4月30日時点）

総資産・純資産の推移



自己資本比率の推移



総資産

3,254百万円

前年同期比 5.2%減 ↓

前年同期: 3,434百万円

純資産

747百万円

前年同期比 6.2%増 ↑

前年同期: 704百万円

自己資本比率

23.0%

前年同期比 6.5%増 ↑

前年同期: 16.5%

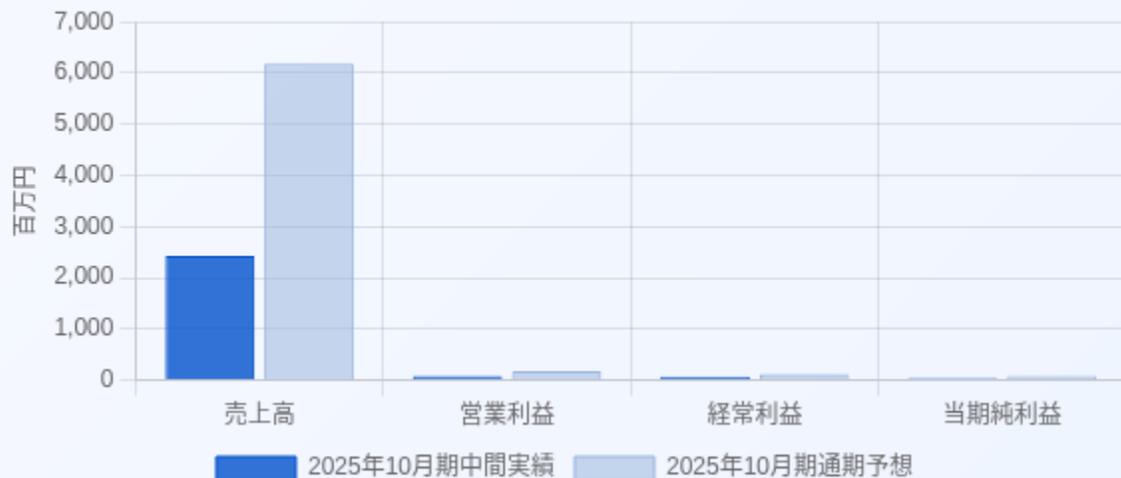
財政状態の分析

（注）資産は、貸借対照表の左側、負債・純資産は右側を指す。

今後の見通しと業績予想

2025年10月期通期（2024年11月1日～2025年10月31日）

2025年10月期 中間実績と通期予想



2025年10月期通期業績予想

売上高

6,188百万円 前期比 0.8%増

経常利益

125百万円 前期比 24.6%減

営業利益

174百万円 前期比 11.5%減

当期純利益

81百万円 前期比 38.3%減

i 中間期の営業利益、経常利益は黒字転換を達成、下期も引き続き安定的な業績を目指します

事業セグメント別の見通し

住宅事業

- ✓ 生産管理部が機能したことから、巻き戻し工事等の追加原価の発生が抑制されコストダウンに成功
- ✓ 下期に基幹システムを改良することにより更に生産性が上がる見通し

不動産事業

- ✓ 上期では大きな成果が見られなかったものの大型リゾートヴィラの受注好調
- ✓ 下期に売上が集中するため通期では予算達成の見通し

福祉関連施設事業

- ✓ 自社独自のノウハウが蓄積されたことにより粗利が改善傾向
- ✓ 九州以外の地域においても受注を開始しており全国展開へ

全社的な技術革新と生産性向上

まとめ・今後の戦略

2025年10月期中間期 決算概要と今後の展望

2025年10月期中間決算 主要ポイント

- ✓ 売上高は微減も **営業利益** **経常利益は黒字転換**
- ✓ 住宅事業が大幅伸長（売上高10.9%増、利益590.9%増）
- ✓ 自己資本比率が23.0%に向上（+2.5pt）
- ✓ 福祉関連施設事業の収益性向上（利益25.0%増）



住宅事業の強化

- セミオーダー・規格住宅の提案力向上
- 生産性向上による収益性改善
- 建売住宅の販売強化



デジタル戦略の推進

- Web集客力強化のためのHP改修
- SNSマーケティングの強化継続
- デジタルを活用した顧客体験向上



福祉関連施設の拡充

- 障がい者グループホーム施設の販売強化
- 高収益モデルの確立と展開
- 社会的価値と経済的価値の両立

2025年度下期に向けた取り組み

収益性向上と財務基盤強化を継続しながら、次期成長に向けた布石を打ち、持続的な企業価値向上を目指してまいります

成長戦略とAI活用の詳細

持続的な企業価値向上に向けた取り組み

住宅事業

生産性と収益性の向上

- ✓ 生産管理部が機能化により、巻き戻し工事等の追加原価発生を抑制
- ✓ コストダウン施策の成功により粗利率が大幅改善
- ✓ 下期に基幹システムを改良し、更なる生産性向上を実現
- ✓ 前年同期比 利益590.9%増の実績を基盤に更なる成長へ

不動産事業

高付加価値物件の受注拡大

- ✓ 上期では大きな成果が見られなかったものの下期に売上集中の見通し
- ✓ 大型リゾートヴィラの受注が好調で年間目標達成へ
- ✓ 売買仲介と賃貸管理の連携強化による安定収益の確保
- ✓ 予算達成へ向けた下期の重点販売施策を展開中

福祉関連施設事業

全国展開と高収益化の両立

- ✓ 自社独自のノウハウが蓄積され、粗利率が継続的に改善
- ✓ 九州以外の地域においても受注を開始し全国展開を加速
- ✓ 障がい者グループホーム施設の標準モデル確立と展開
- ✓ 前年同期比 利益25.0%増の実績を基に更なる拡大へ

業界最先端のAI技術活用による業務革新

提案力とスピードの向上

- ➡ 顧客要望を即時分析し最適プランを迅速生成する技術を導入
- ➡ 業界標準と比較して提案プロセスの大幅な効率化を実現

設計・施工プロセスの最適化

- ➡ 業界の最先端技術を取り入れた設計支援システムを導入
- ➡ 先進的な構造設計技術に基づく生産性向上を実現

「業界のAI活用事例を積極的に取り入れ、競合他社との差別化と持続的な成長を実現しています」